



岡山フルートの会会報

2008 年 7 月号 第 113 号

HP: <http://www.okayama-flute.net/>

E-mail: okayama-flute@mail.goo.ne.jp

いよいよ夏本番です。学生の方は夏休みに入る月でもありますね。(羨ましい限りです！) いろんな演奏会も開催されますので、是非、良い音楽にたくさん触れてください。素敵な夏の思い出ができますように！

♪ 第 10 回岡山学生フルート・コンクール実行委員募集！

9 月 21 日(日)に開催される第 11 回岡山学生フルート・コンクールの第 2 回実行委員会を、下記のように開きます。実行委員を希望される方は安達さんまでご連絡ください。

8 月 12 日(火)19:30～ 長谷川楽器店 3 階ホール

安達さん(実行委員長): 090-8993-8543 E-mail: flutekid555@hotmail.com

♪ チャレンジコンサート実行委員募集！

岡山フルートの会の主要行事の一つの「チャレンジコンサート」が、10 月 26 日(日)に開催されます。実行委員を募集いたしますので、ご希望の方は下記に連絡をしてください。

能勢さん(実行委員長): 090-89913711 E-mail: eriyasu99@ybb.ne.jp

♪ 掲示板のパスワード変更

岡山フルートの会が設定している掲示板(ホームページ)のパスワードを変更します。変更日時は 7 月 20(日)で、パスワードは半角で【totoro】です。お知らせなどをご自由に書き込みしてください。

♪ 演奏会のご案内

第 15 回安達雅彦フルート・リサイタル(岡山フルートの会主催)

7 月 20(日)14:00 開演(13:30 開場) 岡山市民文化ホール ピアノ: 芦田 田鶴子

入場料: 2,000 円 曲目: フルートとピアノのためのグランド・デュオノクターウ

フルートとピアノのためのソナタノモーツァルト 他

* 安達さんから、会員の皆さんにチケットのプレゼントがあります。チケットを一枚、この会報に同封していますので、どうぞお出かけください。

安達さん: 090-8993-8543 E-mail: flutekid555@hotmail.com

音の宝石箱 vol.1(岡山フルートの会後援)

藤澤桂子&八尋直哉ジョイントコンサート(ゲスト: 岡部しのぶ)

7 月 23 日(水)18:30 開演(18:00 開場) 岡山ルネスホール

入場料: 一般 2,500 円 高校生以下 1,500 円 親子ペア 3,500 円

7 月 29 日(火)19:00 開演(18:00 開場)

神戸チキンジョージ 入場料: 3,000 円

曲目: スペインのフォリアノマレー カルメン幻想曲ノボルヌ 他

武蔵野アンサンブル コンサート

8月31日(日)13:30 開演 倉敷芸文館大ホール

入場料;1,000 円

会員の堺 由美さん、古賀久枝さん、小池かほるさんが出演されます。

♪ 星っさんコーナー(その 33)

「デニス・ブリアコフの事」

星島明郎

去る6月5日(木)「デニス・ブリアコフ スペシャルコンサート」を聴きに神戸に行きました。その目的は二つありました。一つは、今最も期待されている若手フルート奏者デニス・ブリアコフ(ロシア人)のリサイタルを聴くため、もう一つは佐渡裕が芸術監督を務める「兵庫県立芸術文化センター」のホールを一度見ておきたかったためです。

このホールは、兵庫県西宮市に今から3年前の2005年に開館しました。阪急神戸線西宮北口の改札を出て、そのまま広い廊下を2~3分西に向かって歩くと、いつの間にかホールの入り口に吸い込まれるようになって行けます。大ホール(2001席、岡山シンフォニーホールと同じ)、中ホール(800席、岡山市立市民文化ホールと同じ)、小ホール(417席、岡山テルサと同じ位)の3ホール、それにリハーサル室、練習室、楽団ゾーン、大きなレストラン等があり、その全てに木がふんだんに使われていて、見るからに音響の良さが感じられました。3台のスタインウェイピアノ、それにベーゼンドルファーとヤマハが1台ずつ、その全てをブーニンが選定したのだそうです。ソフト面では専属のオーケストラ「兵庫芸術文化センター管弦楽団」があり、専属指揮者に佐渡 裕氏(芸術監督)を迎えて盛んに演奏活動をしているのです。我々から見るとまさに理想的な音楽の殿堂を見る思いでした。とてもかなわぬ望みなれど、我が岡山市のモデルにしたいような気持ちにさせられました。

もう一つの目的は、あのラッパのような大きな音で鳴り響くデニスの超人的な音を、もう一度耳に焼き付けたかったためです。彼は、3年前から私の最も注目していたフルーティストでした。昨年、日本フルートコンベンション(東京)にもソリストとして招待され、リサイタルも行ったので聞かれた方もいると思います。私が最初に彼のフルートに接したのは3年前のミュンヘン国際コンクールでした。1次・2次予選で初めて彼の音を聞いた時、その鳴りの凄さに、全く圧倒されてしまいました。その時彼は若干23歳、若さの全てを一管に吹き込み、鳴らし切っている感じでした。特に、現代曲に関しては圧巻でした。他の誰の音とも違う、まるで管内にマイクを隠し入れて吹いているような凄さがありました。予選の時から彼の順番になると常に多くの聴衆が集まって来て、感嘆の声を上げていました。残念ながら、経験豊富でベテラン揃いのファイナリスト3人の中には残れませんでした。セミファイナルの6人の中には入って、新曲の委嘱作品ベスト解釈賞とベーレンライター賞をとり、賞金をがっばり貰っていました。この度一緒に聞いた大阪フィル主席フルート奏者の野津さんが、「彼の音を聞いて、低音に関して意識改革しなければならない」と真剣な顔で話していたのが印象的でした。

話は変わりますが、東京芸大の金昌国先生のレッスンでも、特にフルートにおける低音の重要性を生徒たちに繰り返し話され、毎回相当の時間をかけて、タファネルとゴーベールの1番を使って低音のスタカート練習をさせていたのを思い出します。満足な楽器も少なく調整も不完全だった私たちの学生時代(タンポの入れ替えは、ほとんど自分でしていました。)、次のような笑いに笑えぬ句を真面目に口にしていたものでした。「フルートや 蚊の鳴くようなC(チェー)の音」。「Cの音 鳴ったぜ今夜は 赤飯だ」。

興奮冷めやらぬその翌日、たまたまテレビの音楽番組で「ベルリンフィルハーモニー木管5重奏団」の演奏を聴きました。フルート奏者のミハエル・ハーゼルが、真っ黒い全木管のフルートでモーツァルトの「ディヴェルティメント」を吹いていました。決してバンバン鳴り響く音ではないけれど、暖かくて柔らかく、まるでやかな音色でした。つい、「これもいいナー」と言いながら、幸せな気持ちになって聞き入っていました。いろいろな音、いろいろな奏法、いろいろな表現がフルートにはある。「だからフルートは楽しいんだ。好きなんだ」とつくづく思ったことでした。

♪ 会報係りから

演奏会案内、お知らせ、コメントなどがありましたら、熊瀬さんに連絡してください。

熊瀬さん: kumakuma-family@nifty.com

【会報の封筒詰めのお知らせ】

8月号の会報の封筒詰めを、8月5日(火)午後7時から長谷川楽器店3階ホールで行います。
会員の皆さまには、是非、封筒詰めのお手伝いをお願いします。

